

短期効果に関するアンケート調査

広島県立保健福祉短期大学看護学科

石川清美

広島大学幼児保健学教室

清水凡生

■ はじめに

思春期における保健福祉体験学習の一つとして乳幼児とのふれあい体験学習がある。これは思春期の中に意図的に乳幼児との接触の機会を作り、生命の尊厳や性に関する教育の機会とし、父性や母性の涵養を図ることを目的としている。

現代のように子どもや親子関係を巡る問題が社会問題化している状況の中で、子育てを個人の問題として片づけるのではなく、社会が次の世代を育てる責任として、その一端を担っていくことが必要になっている。つまり、少子化や核家族化により家庭の中で、思春期までの間に育児について経験を通じた積極的な知識を得ることが少ない。また地域社会の中で人間関係が希薄になっているために、ごく日常的な育児に関する周囲からの援助が受けられず、孤立した親が増えてきている。反対に育児情報が氾濫し、未熟な母親達を更に混乱させている。こうした中で子どもとどう遊んだらよいかわからない、子どもに振り回されて生活の組立が出来ない等の育児不安が育児相談に寄せられているのが現状である。我が国の小児虐待の多くは、育児不安や育児の疲れが背景にあるといわれ、その対策の一つとしても思春期に乳児に触れる体験をすすめる必要性が唱えられている。また若年者の妊娠や望まない妊娠も多く、人工中絶による母胎の健康阻害は重視すべきである。

このような社会的背景の中で行われている思春期体験学習が、受け手側である中高校生にどのようなインパクトを与えているのか、体験の前後で中高校生の認識がどのように変化するのか、アンケート調査を通して検討した。

■ 研究方法

平成5年度から平成7年度までの3年間に、山梨、兵庫、広島県の1市3町村で実施された思春期体験学習をアンケート調査により評価した。調査

対象は、乳児検診に参加した中学生345名(男188,女157)、高校生90名(男21,女69)の合計435名である。

体験学習に入る前には、それぞれの学校で育児についての何らかの授業がなされている。体験学習では、乳児1名に対し生徒1-2名が、乳児検診の過程を通じて共に過ごし、乳児の抱っこや着替えなどを経験し、また母親の乳児に対する関わり方や乳児の反応、その他の大人の対応などを観察することができる。体験に費やす時間はだいたい1-2時間である。

アンケートは体験学習の前後で行い、乳児とのふれあいによる中高校生の認識の変化を見た。内容は「祖父母との同居の有無」「年下のきょうだいの有無」「これまでの赤ちゃんとの接触経験」などの背景要因の他、「赤ちゃん」「育児」「親」「体験学習」などについてのイメージや認識を尋ねた。有意差検定(P<0.05)には対数一線形モデル分析を用いた。

■ 研究結果

1. 男女差

参加者の男女比は、男209対女226で若干女子生徒の方が多い。「祖父母と同居」している者や「年下のきょうだい」がいる者は、男女とも約半数を占めている。そして男子生徒の約40%前後は、これまでに「赤ちゃんと遊んだり、抱っこ」を経験していない。一方女子生徒の80%以上が、「赤ちゃんと遊んだり、抱っこ」を経験している。(表1)

イメージや認識について否定的、肯定的、その他の3群に分けそれぞれについて、男子生徒と女子生徒で比較したところ、次のような相違が明らかになった。(表2)「赤ちゃんについて」は、男子生徒は女子生徒に比べ否定的な認識が有意に高く、男子生徒は乳児は「やかましい、よく泣く」といったイメージを持っている。

「赤ちゃんを育てる母親について」の認識は、体

表1 対象者の背景 (%) ** P<.05

	男子生徒	女子生徒	全体
年齢構成			
中学生	118(90.0)	157(69.5)	345(79.3)
高校生	21(10.0)	69(30.5)	90(20.7)
祖父母同居の有無			
同居	123(58.8)	119(52.7)	242(55.6)
非同居	85(40.7)	106(46.9)	191(43.9)
年少のきょうだい			
あり	102(48.8)	125(55.3)	227(52.2)
なし	107(51.2)	101(44.7)	208(47.8)
赤ちゃんと遊び経験			
あり	124(59.3)**	201(89.0)**	325(74.7)
なし	81(38.8)**	22(9.7)**	103(23.7)
その他	4(1.9)	2(0.9)	6(1.4)
無回答	0(0.0)	1(0.4)	1(0.2)
赤ちゃんと抱っこ経験			
あり	111(53.1)**	188(83.2)**	299(68.7)
なし	91(43.5)**	33(14.6)**	124(28.5)
その他	7(3.4)	5(2.2)	12(2.8)
合計	209(100.0)	226(100.0)	435(100.0)

験前には男女共に「大変そう、忙しそう、めんどくさそう、きつそう」などの否定的なイメージがそれぞれ140名(67.0%)、120名(53.1%)と多くみられる。体験後のアンケートでは、否定的なイメージをもつ女子生徒が59名(26.1%)と減少したのに比べて、男子生徒では減少の幅は小さく103名(49.3%)と有意に高くなっている。「親が子どもを育てることについて」みると、体験前後ともに「素晴らしい、ありがたい」という認識を持つ生徒は、男子に比較して女子の方が有意に多くみられる。「親に対する認識」では、男子生徒は「うるさい」が多く、「子育てについて」も「めんどく、何とも思わない」が女子生徒に比較して多く見られた。

また「赤ちゃんは嫌い、好きではない」といった認識は、女子生徒より男子生徒に有意に高く見られる。男子生徒の33.0%が体験前には「赤ちゃんは嫌い、好きではない」と思っているが、体験後にはこれらの認識を持つ生徒は11.5%に減少し、逆に「好き」が60.8%を占めている。「抱っこすること」についても、「こわい、いや」といった否定的な回答が、体験後男女共に減少している。

ふれあい体験学習については、男子生徒の45.9%が「したくない、気がすまない」と答えているが、体験後では24.4%に減少し、逆に「今後の体験が楽しみ」とした生徒が過半数を占めた。

2. 年齢による比較

中学生と高校生の比較では、「子育てについて」

中学生は「忙しい」が、高校生では「おもしろい」や「素晴らしい」がそれぞれ多く見られる。また「子育てをしている母親」については「生き生きとしている」、「赤ちゃんが好きかどうか」については「好き」といった肯定的な回答が、中学生に比較し高校生に多く見られた。これは高校生の男女比を見た場合、男子に比べて女子の比率が高いことが影響していると思われる。

3. 体験学習前後での比較

全体的に見た体験学習の前後の比較では、体験後は否定的なイメージや認識が減少し、肯定的なイメージや認識を持つ生徒が増加している。

実施年度別に見てもだいたい同じ様な傾向を示している。

「赤ちゃんのイメージについて」は、「やかましい」は体験前に有意に高く、体験後は「かわいい、元気、たくましい」などの肯定的な認識を持つ生徒

表2 性差による認識の相違 (%) ** P<.05

	体験学習前		体験学習後	
	男子生徒	女子生徒	男子生徒	女子生徒
赤ちゃんのイメージ				
否定的	86(41.1)**	29(12.8)**	50(23.9)**	10(4.4)**
肯定的	99(47.4)**	190(84.1)**	147(70.3)**	206(91.2)**
その他	24(11.5)**	7(3.1)**	13(6.2)	8(3.5)
子育て中の母親				
否定的	140(67.0)	120(53.1)	103(49.3)**	59(26.1)**
肯定的	50(23.9)**	98(43.4)**	105(50.2)	161(71.2)
その他	19(9.1)	8(3.5)	1(0.5)	6(2.7)
赤ちゃんへの好感度				
否定的	69(33.0)	20(8.8)	24(11.5)	5(2.2)
肯定的	73(34.9)**	191(84.5)**	127(60.8)**	214(94.7)**
その他	67(32.1)	15(6.7)	58(27.8)**	7(3.1)**
抱っこについて				
否定的	65(31.1)	64(28.3)	40(19.1)	40(17.7)
肯定的	35(16.7)**	124(54.9)**	121(57.9)**	163(72.1)**
その他	109(52.2)**	38(16.8)**	48(22.9)	11(4.9)
体験への参加				
否定的	96(45.9)**	14(6.2)**	51(24.4)	7(3.1)
肯定的	56(26.8)**	191(84.5)**	111(53.1)**	208(92.0)**
その他	57(27.3)	21(9.3)	47(22.5)	11(4.9)
合計	209(100.0)	226(100.0)	209(100.0)	226(100.0)

が多くなっている。(表3)「赤ちゃんから連想するもの」では、体験後は「お乳、おむつ」が減少し、「いのち、お母さん」が増えている。(表4)

育児については、「めんどく、忙しい」が減少し、

表3 赤ちゃんのイメージ (%) ** P<.05

	体験前	体験後
①弱い	20(4.6)	11(2.5)
②やかましい	28(6.4)**	2(0.5)**
③何もできない	12(2.8)	13(3.0)
④よく泣く	55(12.6)	34(7.8)
⑤かわいい	214(49.2)**	256(58.9)**
⑥元気	57(13.1)**	81(18.6)**
⑦大きくなる	15(3.4)**	4(0.9)**
⑧たくましい	3(1.4)**	12(2.8)**
⑨自分の昔の姿	14(3.2)	12(2.8)
⑩その他	17(3.9)	9(2.1)
無回答	0(0.0)	1(0.2)
合計	435(100.0)	435(100.0)

表4 赤ちゃんから連想するもの (%)** P<.05

	体験前	体験後
①お乳	52(12.0)**	19(4.4)**
②おむつ	86(19.8)**	47(10.8)**
③弟	31(7.1)	28(6.4)
④妹	16(3.7)	14(3.2)
⑤いのち	41(9.4)**	83(19.1)**
⑥天使	72(16.6)	70(16.1)
⑦お父さん	0(0.0)	4(0.9)
⑧お母さん	29(6.7)**	87(20.0)**
⑨子犬	9(2.1)**	21(4.8)**
⑩小猿	51(11.7)**	31(7.1)**
⑪子猫	6(1.4)	10(2.3)
⑫かるがも	10(2.3)	7(1.6)
⑬その他	27(6.2)**	14(3.2)**
無回答	5(1.1)	0(0.0)
合計	435(100.0)	435(100.0)

表5 育児について (%)** P<.05

	体験前	体験後
①めんどう	35(8.0)**	19(4.4)**
②いそがしい	183(42.1)**	116(26.7)**
③苦しい	22(5.1)	15(3.4)
④面白い	11(2.5)**	33(7.6)**
⑤楽しい	28(6.4)**	57(13.1)**
⑥素晴らしい	51(11.7)**	100(23.0)**
⑦幸せ	54(12.4)	65(14.9)
⑧何とも思わない	10(2.3)	5(1.1)
⑨わからない	28(6.4)**	8(1.8)**
⑩その他	12(2.8)	16(3.7)
無回答	1(0.2)	1(0.2)
合計	435(100.0)	435(100.0)

「おもしろい、楽しい、素晴らしい」がそれぞれ増加している。(表5)「育児している母親」については、「大変そう」が多いが、体験前後で比較すると「楽しそう、幸せそう、生き生きしている」の肯定的な回答がそれぞれ有意に増加している。(表6)

表6 育児している母親について (%)** P<.05

	体験前	体験後
①大変そう	203(46.7)	130(29.9)
②忙しそう	43(9.9)	28(6.4)
③めんどくさそう	9(2.1)	1(0.2)
④きつそう	5(1.1)	3(0.7)
⑤楽しそう	16(3.7)**	76(17.5)**
⑥偉い	38(8.7)	32(7.4)
⑦自分も育てられた	10(2.3)	3(0.7)
⑧幸せそう	42(9.7)**	97(22.3)**
⑨いきいきしてる	42(9.7)**	58(13.3)**
⑩何とも思わない	11(2.5)	2(0.5)
⑪わからない	8(1.8)	2(0.5)
⑫その他	6(1.4)	3(0.7)
無回答	2(0.5)	0(0.0)
合計	435(100.0)	435(100.0)

「親が子どもを育てること」について、「すべき事、当たり前のこと」が減少し、「ありがたい」が増加している。(表7) また「一般的な親」についても「うるさい、わずらわしい」が減少し、「ありがたい」が増加している。(表8)

「赤ちゃんが好きか嫌い」については、「嫌い、好きでない」が減少し、「好き、非常に好き」が増

表7 親が子を育てることについて (%)** P<.05

	体験前	体験後
①親の責任	94(21.6)	67(15.7)
②親のすべきこと	66(15.2)	45(10.3)
③当たり前のこと	99(22.8)**	54(12.4)**
④素晴らしい	62(14.3)**	137(31.5)**
⑤ありがたい	70(16.1)	92(21.1)
⑥わからない	34(7.8)	30(6.9)
⑦その他	8(1.8)	8(1.8)
無回答	1(0.2)	0(0.0)
誤回答	1(0.2)	2(0.5)
合計	435(100.0)	435(100.0)

表8 一般的な意味での親について (%)** P<.05

	体験前	体験後
①うるさい	89(20.5)**	36(8.3)**
②わずらわしい	21(4.8)**	8(1.8)**
③注文が多い	39(9.0)	18(4.1)
④厳しい	24(5.5)	11(2.5)
⑤威厳がある	10(2.3)	9(2.1)
⑥ありがたい	66(15.2)**	129(29.7)**
⑦たのもし	15(3.4)**	26(6.0)**
⑧楽しい	12(2.8)	17(3.9)
⑨安心感がある	75(17.2)**	108(24.8)**
⑩わからない	70(16.1)	61(14.0)
⑪その他	13(3.0)	7(1.6)
無回答	1(0.2)	5(1.1)
合計	435(100.0)	435(100.0)

加している。(表9)「抱っこすること」について

表9 赤ちゃんが好きか (%)** P<.05

	体験前	体験後
①嫌い	18(4.1)**	4(0.9)**
②好きでない	71(16.3)**	25(5.8)**
③好き	180(41.4)	192(44.9)
④非常に好き	84(19.3)**	149(34.3)**
⑤わからない	76(17.5)	55(12.6)
⑥その他	6(1.4)	5(1.1)
無回答	0(0.0)	5(1.1)
合計	435(100.0)	435(100.0)

は、「いや」が減少し、「楽しい、非常に楽しい」が増加している。(表10)

体験学習に対する認識は、体験学習終了後は今後の体験学習について「楽しみ」と回答した生徒が76%を占め、体験学習をする前の57%に比較して増加している。(表11)

■ 考 察

過去3年間のアンケート分析した結果、体験前の多くの否定的な認識は体験することにより肯定的な方向へ変化していることがわかった。これは乳児検診という場所で多くの乳児とその母親や他の大人の関わりが見られること、そして個別対応に近い形での体験が、中高校生に大きなインパクトを与えた結果だと考える。もちろんどのような体験学習にも見られる一般的な初期効果であることも考えられるが、昨年の長期効果の報告による

表 10 抱っこすることについて (%) ** P<.05

	体験前	体験後
①こわい	88(20.2)	73(16.8)
②いや	41(9.4)**	7(1.6)**
③楽しい	117(26.9)**	171(39.3)**
④非常に楽しい	42(9.7)**	113(26.0)**
⑤わからない	132(30.3)**	32(7.4)**
⑥その他	15(3.4)**	31(7.1)**
無回答	0(0.0)	7(1.6)
誤回答	0(0.0)	1(0.2)
合計	435(100.0)	435(100.0)

表 11 ふれあい体験について (%) ** P<.05

	体験前	体験後
①したくない	30(6.9)	13(3.0)
②あまり気乗りしない	80(18.4)	45(10.3)
③少し楽しみ	137(31.5)**	194(44.6)**
④非常に楽しみ	110(25.3)	125(28.7)
⑤わからない	71(16.3)	50(11.5)
⑥その他	7(1.6)	3(0.7)
無回答	0(0.0)	5(1.1)
合計	435(100.0)	435(100.0)

と体験者は、育児に対して好感的な立場をとることが指摘されており、一時的な効果とは断定できない。しかし現実には、乳児や育児に対して関心を持ち続けることは難しいので、学校教育の中でも、家庭科の授業や福祉学習として、実際に体験できる機会を増やすことが望まれる。

アンケートの中でも、体験によりイメージが具体的になった事による認識の変化と、体験を自己に結びつけて考えたと思われる認識の変化が見られる。後者は、親に対する認識の変化に現れている。親に対する認識の変化は、男女別の認識の変化と併せて考えると、男子生徒の認識の変化が大きくでている。これは体験前に乳児との接触経験がなかった男子生徒にとっては、今回の体験学習で乳児についてのイメージを具体的にし、更に育児や親を今までと違った側面からとらえる機会となっていることがうかがえる。ここでの体験は、日常生活の中での親子関係や今後の赤ちゃんとのふれあう場面で想起、強化され、感受性豊かな思春期の心に何らかの影響を与えると考えられる。

また体験により否定的な認識が減少しているにも関わらず、体験後「わからない」が増加している項目がみられた。これは実際に乳児に接し、例えば抱っこについて「いや、こわい」というわけではなく「楽しい」といった単純なものでもないという

ように、育児について多面的に理解出来るようになった現れであると考えられる。体験学習が乳児や育児に対して否定的なイメージから、乳児の「かわいさ」や「いのちの躍動感」を感じることに変化させるだけでなく、単に育児が楽しいことばかりではない事を考える機会になったことは、むしろ実際の子育てを反映した学習の機会として好ましいのではないだろうか。

さらにこのアンケート結果から断定出来ないが、体験学習の効果に影響を与える因子として、実際の体験場面での関わり方がどうであったのかを考慮すべきであろう。中高校生とくに男子生徒にとって、乳児に関心を持ち続けることは難しく、その場面に関わった母親や保健婦、母子保健推進員、教師等の大人の役割が重要になるだろう。調査者の観察でも、「上手だね」の一言で積極的に関わったり、「泣かれてどうしたらよいかわからない」と戸惑い乳児から離れる生徒が見られたことから、「できたこと」の喜びや育児は難しいが「小さいのちを育てることの大切さ」が実感できるように援助する必要がある。

■ まとめ

思春期体験学習は、中高校生の乳児や親に対する認識に大きな影響を与えることがわかった。今後は短期効果については、言語化されない認識の評価および継続的な効果の検討をすすめる必要がある。また体験学習で認識が変化しなかった事例の検討をすることにより、学習内容や方法の検討、特に体験場面での効果的な関わり方について検討する必要がある。

謝 辞

本研究を行うについて次の方々のご協力をいただいたことを報告し、感謝の意を表します。

河内中学校教諭 貫名弘恵
 河内町福祉保健課保健婦 林由美子
 河内町福祉保健課保健婦 松田麻優子
 豊田高等学校教諭 平本菊美
 安芸津町福祉課保健婦 林裕美



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



まとめ

思春期体験学習は、中高校生の乳児や親に対する認識に大きな影響を与えることがわかった。今後は短期効果については、言語化されない認識の評価および継続的な効果の検討をすすめる必要がある。また体験学習で認識が変化しなかった事例の検討をすることにより、学習内容や方法の検討、特に体験場面での効果的な関わり方について検討する必要がある。